

令和5年度長野県教育委員会主要施策

「個人と社会のウェルビーイングの実現

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」ととことん追求できる「探究県」長野の学び～

変化が激しく予測が困難で唯一の正解が無くなっていくこれからの時代においては、一人ひとりが、他の誰でもない自分の個性や可能性を認識するとともに、多様な他者を尊重し、協働しながら持続可能な社会を創っていくことが求められています。そのことにより、多様な個人がそれぞれの幸せや生きがいを実感し、地域や社会も豊かで持続可能なものになっていく、「個人と社会のウェルビーイング」が実現していくと考えます。

教育は、「今」を積み重ねた先にある「未来」を創造する営みであり、未来とは希望です。未来を担う子どもたちのみならずすべての人が、今、そして将来にわたって、学ぶことそのものに喜びを感じ、自分の学びや人生、そして社会変革の当事者になっていく、そのような学びの場を創ることが、個人と社会のウェルビーイングの実現につながります。

すべての学びの場を、子どもも大人も共に学び、ウェルビーイングを追求し実現できる場にしていきたい、そのような思いから、第4次長野県教育振興基本計画の目指す姿を「個人と社会のウェルビーイングの実現～一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」ととことん追求できる「探究県」長野の学び～」と定め、その実現のために4つの政策の柱を掲げ、それぞれを通し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくこととしました。

【一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる】

デジタルの力を活用した多様な児童生徒の特性の把握、その特性に応じた授業・環境の提供や、自ら学習を調整し最適化する学びに取り組む学校への支援、特色ある私立学校や民間企業等と連携した「探究」研修プログラムの開発、学びの改革を担う教員研修の充実などに取り組めます。また、教員のウェルビーイング向上のため、教員配置の充実や、教員業務支援員等の専門スタッフの配置など、教員が児童生徒の指導に専念できる環境を整備するとともに、引き続き、新たな学びの推進と高校再編を改革の両輪とした高校改革を推進します。

【一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる】

人権尊重の視点に立った学校運営・相談支援の充実や、タブレット端末等の活用による不登校児童生徒等への多様な学習支援、経済状況等に左右されない学びの機会の保障など、子どもの権利・安全の保障に取り組めます。また、夜間中学・不登校特例校の設置検討や、フリースクールと学校との連携を強化するなど学校以外の学びの場の確保・充実に取り組めます。さらに、通級による指導を必要とする児童生徒の学びの場の保障や、行動面に困難のある児童生徒への支援を充実するなど、インクルーシブな教育の一層の推進に取り組めます。

【生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる】

学校のデザインや学習環境の整備を地域とともに進める「長野県スクールデザインプロジェクト」の推進や、学校と社会をつなぐコーディネーターの配置を検討するなど、地域と共に学び、共に創る「共学共創」の実現を目指します。また、電子図書館サービスの充実やリカレント講座を開設する県内大学や専修学校等への支援等により、生涯を通じて学ぶことができる環境づくりを進めます。

【文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる】

新たな県史の編さんへの着手や、学校部活動の地域クラブ活動への移行支援、さらには『信州やまなみ国スポ・全障スポ』開催に向けた準備や、競技力の向上に向けた取組を推進していきます。